

平成 30 年 6 月 23 日現在

機関番号：22604

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07101

研究課題名(和文)EPA介護福祉士候補者の自律学習に関する実態調査と実践研究

研究課題名(英文)Actual research and practical study on autonomous learning of EPA certified care worker candidates

研究代表者

野村 愛(Nomura, Ai)

首都大学東京・健康福祉学部・特任准教授

研究者番号：90775090

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本は、経済連携協定に基づき、インドネシア、フィリピン、ベトナムから、介護福祉士候補者を受け入れており、候補者が日本で継続して就労するためには介護福祉士国家試験の合格が条件となる。候補者は約3年間、介護の仕事をしてしながら国家試験のために学習するため、自律学習が重要となる。本研究では、候補者への具体的な自律学習支援の提案を目的として次の3点を行なった。自律学習に関する文献調査、質問紙による実態調査、実践研究である。これらの結果を踏まえ、候補者及び候補者の学習支援者への具体的な自律学習支援の提案として介護の専門日本語のリソース集を作成した。

研究成果の概要(英文)：Japan has been accepting certified care worker candidates from Indonesia, the Philippines and Vietnam under the EPA program. In order to continue working in Japan, it is necessary to pass the national care worker's test. Candidates study for the national test while doing care work for about 3 years. So that autonomous learning is important for them. In this research, the following three researches were done with the aim of proposing a concrete autonomous learning support to candidates- (1) Literature survey on autonomous learning, (2) actual research by questionnaire survey, (3) practical study. Based on the results from the three researches, the researcher developed a resource book for the national examination as the proposed concrete autonomous learning support to candidates and their learning supporters.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育 外国人介護人材 自律学習 介護の日本語教育 EPA

1. 研究開始当初の背景

日本は、インドネシア、フィリピン、ベトナムから、経済連携協定（以下、EPA）に基づき、外国人介護福祉士候補者（以下、候補者）を受け入れており、候補者の数は年々増加している。本制度では、公的な日本語教育の実施、介護福祉士国家試験（以下、国家試験）の受験義務、国家試験の合格者のみ就労の継続が許可されるという特徴がある。よって、候補者は国家試験までの3年間、仕事をしながら学習を行う。候補者の受入れ開始以降、追加施策や日本語教育分野の研究成果により、候補者に対する日本語教育の充実が図られてきた。

就労開始後も、集合研修、教材配付、通信添削などの公的な学習支援があり、また受入れ施設も独自で学習支援を行っている。さらに、自律学習支援システムなども開発されている。日本語教育の充実化の一方で、候補者は多様な学習支援を利用しながら学習を行わなければならないため、自律学習に課題を抱えている候補者も見られる。

候補者にとって、自律学習は次のような点で重要である。

日本の介護施設で仕事をしながら、3年間で、国家試験合格に必要な日本語及び介護の専門知識を習得しなければならない

受入れ施設によって学習環境が異なるため、候補者自ら学習支援や学習資源を有効活用して学習を進める必要がある

国家試験合格後も EPA 介護福祉士として、日本語を含む介護の専門知識や技術を習得するために学習を続ける必要がある

しかしながら、管見の限りでは候補者の自律学習に着目した研究は希少である。上記の点から、候補者の自律学習がうまく進むよう、自律学習支援の検討が必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、受入れ施設配属後、国家試験合格を目標として学習を行なう候補者がどのように学習をしているかを明らかにし、自律学習支援の具体的な提案を行なうことである。

3. 研究の方法

研究方法は、(1)文献調査、(2)実態調査、(3)実践研究である。以下の流れで行なった。

(1) 文献調査	
学習資源（ウェブサイト）・自律学習について	
(2) 実態調査	(3) 実践研究
調査方法の検討	準備：自律学習支援の検討 (個人化・ICT等)
研究倫理面の検討	実践：専門日本語コース 「介護の専門日本語読解」
質問紙調査の検討	質問紙調査の検討
調査準備（研究倫理申請・調査協力同意）	
質問紙調査実施	
結果分析	
研究目的「自律学習支援の具体的な提案」 「まなびのリソース集」作成・配付	

(1) 文献調査

文献調査では、「自律学習」及び、学習資源に関する調査を行なった。後者については4章で述べる。「自律学習」は、就労前の日本語研修でも重視されており、研修内で自律学習に関する取り組みが行われている。「自律学習」に関する定義は、研究者によってさまざまである。そこで、本研究を進める前に、「自律学習」「学習者オートノミー」などのキーワードを含む「自律学習」の定義に関する文献調査を行なった。

Holec (1981) は、自律学習を「学習者が自分の学習に責任を持つ」とことと定義している。また、自律した学習者とは「自分にどのような学習が必要であるかを見極め、学習のゴールを決め、その学習に必要な教材を選択し、自分の不得意な部分を認知し、適切な学習ペースや時間配分を決め、学習の進捗具合をモニターしたり、学習を評価したりすることができる学習者」とであると定義しており、認知心理学のメタ認知の定義とよく似ている(尾関 2010)。津田 (2013) が指摘するように、学習者個人がメタ認知ストラテジーをどれだけ使用するかということが問題ではなく、学習者が自分の置かれた社会コンテキストを視野に入れながら、コンテキストとの相互行為を通して、どう学習を管理するかというメタ認知が重要となる。

(2) 実態調査

実態調査では、候補者がどのように学習をしているかという点を明らかにする。調査協力者は、首都大学東京と東京都とが連携して行なった「専門日本語コース」の受講者のうち、受入れ施設と候補者、双方の同意が得られた者である。調査方法を検討する中で、インタビュー調査は個人が特定されやすいため質問紙調査のみとし、コース終了後に実施することにした。質問紙は、上述のHolecの自律学習の定義を踏まえ、津田 (2013) などを参考に作成した。学習目標、計画、教材選択、評価などのメタ認知に関する内容 30 項目で、回答方法は選択式と自由記述である。選択式の回答は「あてはまる」か否か 4 件法で、分析は数値化して平均値を求めた。

(3) 実践研究

実践研究では、既述の「専門日本語コース」において、介護の専門日本語読解の授業(9回)を行なった。報告者は、研究協力者と共にコースをコーディネートし、授業も担当した。学習トピックは、認知症、介護保険などである。授業では、短文読解、介護の専門講義、国家試験問題、確認クイズ、振り返りを行なった。授業の中で、自律学習支援の取り組み(個人化活動、ICTなど)を取り入れた。

コース終了後、実態調査と同様に、振り返りの質問紙調査を行なった。質問紙の内容は、役に立った学習項目や活動、どのように学習(復習、宿題など)を行なったかなどである。

4. 研究成果

本章では、本研究の目的である候補者の「自律学習支援の具体的提案」という観点から、文献調査、質問紙調査の報告を行ない、最後に自律学習支援の具体的提案として作成した「リソース集」について報告する。

(1) 学習資源に関する文献調査

候補者の自律学習に役立つサイトとして、介護の専門用語も調べられる「チュウ太のWeb辞書 <http://chuta.jp/>」「介護のことばサーチ <http://kaigo-kotoba.com/>」などがある。質問紙調査の結果、「わからないことがある」とインターネットやアプリを利用して、自分で調べている者が多かったが、協力者の多くが上述のサイトをあまり利用していなかった。自由記述では、「インターネットで調べてもわからないので、途中で調べたことをあきらめる」「専門用語を調べても意味が載っていない」という記述が見られた。サイトをただ紹介するだけでは実際の使用に結びつかないことが考察されたため、具体的な使い方を提示する必要がある。

また、介護保険制度をわかりやすく解説しているサイトや、地域包括支援センターに関する動画など、候補者が国家試験の学習に利用できそうなサイトも多く公開されている。実践の中で、例えば、「介護保険サービスの中で、どのサービスが一番便利だと思うか」などの課題を出し、候補者は紹介したサイトを使って調べ、自分の意見を述べるといったような活動を行なった。候補者からの振り返りのコメントを見ると、介護保険は難しいが授業に参加して理解できるようになったなどの記述が見られ、サイトを利用した学習の効果が見られた。

しかし、質問紙調査の結果、「介護や日本語に関するサイトを利用した学習」「日本語の新聞やテレビを活用した学習」はあまりしていないことが明らかになった。このことから、単にリスト化して関連サイトを紹介するだけではアクセスしない可能性が高いため、実践の中で行なったように、学習につながる課題と共にサイトを紹介すると学習効果が高まるのではないかと考察する。

(2) 質問紙調査

今回実施した質問紙調査の協力者は就労開始1～2年目の候補者30名で、出身国はベトナム46.7%、インドネシア30.0%、フィリピン23.3%で、半数近くがベトナムであった。日本語レベルは、日本語能力試験N1-N2 66.7%、N3-N5 23.3%、無回答10%であった。約9割が勤務時間内に学習時間が設けられていた。調査協力者は、比較的日本語力が高く、受入れ施設の学習支援も手厚い。実態調査の結果では、「自分の目標がある」「自分で教材を選ぶ」「ネットやアプリを使って自分で調べる」などの項目の平均値が高かった。

全体の平均値だけでなく、日本語レベルな

どもも着目しながら、候補者が自律学習を進める上で課題になりそうな点を以下に報告する。

自由記述に、「自分で自由に計画を立てて学習をしたい」「施設職員は先生ではないのではっきりとした計画がない」など、学習計画に関する課題についての記述が見られた。選択式の結果をみると、多くの者が「学習内容について職員や教師に質問している」が、その一方で「学習方法」に関しては相談しないと回答している者が多かった。候補者が学習支援者と共に、学習計画などを見直し、相談しながら学習を進められるような機会が必要である。

また、選択式の項目で、「他の候補者と一緒に学習する」と回答した者はあまり多くなかったが、自由記述では、「一人で勉強できない」「友達と一緒に勉強したい」という記述が見られた。振り返りの質問紙調査を見ると、他の候補者と一緒に国家試験を解くことが効果的だったことが読み取れ、他者と共に学習することを望む者が多かった。つまり、他の人と一緒に学習すると効果的なのでそのようにしたいと考えているが、そのような学習環境を作り出せない者もいる。他方、自由記述を見ると、ZOOMやLINEなどのICTを利用してグループで学習している者もいた。

このように候補者の学習方法や課題はさまざまである。他者と学習方法について話すことで課題が解決する可能性もあるため、学習方法について他の候補者や学習支援者と意見交換する機会があることも望ましいと考察する。

(3) 自律学習支援の具体的提案

- 「リソース集」の作成

本研究における調査結果や考察を踏まえ、候補者の自律学習支援の具体的提案として、研究協力者と共に「介護の専門日本語 まなびのリソース集」を作成した。候補者は、自分自身のペースで学習を行ないたい者や、ある程度、学習の道筋を示して欲しいと考える者など、多様である。そこで、自分が必要とする内容や課題を候補者が自由に選んで学習することができるリソース(学習資源)集を作成することにした。

リソース集のコンセプトは二つある。一つ目は、「国家試験で日本語の勉強」である。候補者の共通の目標である国家試験問題を活用して、介護の専門日本語を学習することである。内容は以下の通りである。

- ・介護現場と関係があること 1～5章
- ・病気・症状 6～10章
- ・制度・法律 11～13章

二つ目のコンセプトは、「自己学習のサポート」である。学習方法がわからないという者のために、以下のように国家試験問題で日本語を学習する方法を提示した。

言葉を調べましょう
情報を整理しましょう
答えを考えましょう
理由を話しましょう
話しましょう
(あなただったらどうするかを考える)

国家試験問題については答えを載せたが、「話しましょう」などの課題は、正解がないため答えは示していない。一部、先輩候補者の答えを紹介しているが、「書いたことや考えたことは施設の方や友達と共有しましょう」というコメントを添えて、他者の助けを借りて学習が完結するようになっている。

1章の前に、「学びのサポート」の章を設けた。「学びのサポート 役に立つ Web サイト」の章では、「介護のことばサーチ」「チュウ太の Web 辞書」の具体的な使い方を提示した。「学びのサポート みんなの学習方法・あなたの学習方法」の章では、実態調査で使用した質問項目を載せた。他の候補者や学習支援者と共に学習を見直したり、意見交換をしたりすることもできる。

以上のように、このリソース集は、候補者の自律学習支援だけでなく、学習支援者の支援にもつながるものである。

<引用文献>

Holec, H. (1981). *Autonomy and Foreign Language Learning*. Oxford: Pergamon
尾関直子 (2010) 「第4章 学習ストラテジーとメタ認知」『成長する英語学習者 学習者要因と自律学習』大修館書店
津田ひろみ (2013) 『学習者の自律をめざす協働学習 中学校英語授業における実践と分析』ひつじ書房

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

野村愛 (2017) 「急速に整備される外国人介護人材の受入れと日本語教育の課題」『東京外大 東南アジア学』(査読有) 第22号、31-47

野村愛 (2016) 「外国人介護福祉士候補者の自律学習研究の必要性 候補者に対する日本語教育及び学習支援の現状報告」『地域ケアリング』(査読無) Vol. 18、No. 12、71 - 73

[学会発表](計2件)

野村愛、奥村匡子、奥村恵子、加藤真実子、齊藤真美、石井清志 「介護の専門日本語研修における ICT 活用と課題」第50回日本語教育方法研究会 (2018年3月24日)

野村愛、奥村匡子、奥村恵子、加藤真実子、西郡仁朗 「介護の専門日本語教育における『個人化』活動の試み EPA 介護福祉士候補者の自律的な学習支援を目指して」看護介護の日本語教育研究会 研究発表会 (2018年3月23日)

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他] ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野村 愛 (NOMURA, Ai)

首都大学東京・健康福祉学部・特任准教授
研究者番号：90775090

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

奥村 匡子 (OKUMURA, Kyoko)